

神宮寺下遺跡

——市道岩井赤岩線の拡幅工事に伴う発掘調査報告書——

2010年6月

中野市道路河川課
中野市教育委員会

例　　言

- 1 本書は中野市大字赤岩711に所在する神宮寺下遺跡発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成22年6月1日～6月10日にわたって実施した。
- 3 本調査は中野市道路河川課が中野市広域シルバー人材センターに委託して行った。中野市教育委員会は本調査の指導にあたった。
- 4 調査区のグリッドは2m×2m単位で、東西にA'～B、南北に1～20と表示した。
- 5 本報告書の執筆は関孝一の指導のもと吉原佳市が行った。
- 6 トレースは岡田良幸、写真撮影は吉原佳市が担当した。
- 7 本遺跡の出土遺物、写真等の記録資料は中野市立博物館で保管している。

目 次

例 言

第1章 経 過.....	1
第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 調査日誌.....	1
第2章 遺跡の位置とその周辺.....	3
第1節 遺跡の位置と自然環境.....	3
第2節 周辺の遺跡.....	4
第3章 遺構と遺物.....	6
第1節 遺 構.....	6
第2節 遺 物.....	7
(付) 神宮寺下遺跡について	7

挿図目次

第1図 グリッド設定図.....	2
第2図 遺跡の位置図.....	3
第3図 周辺の遺跡分布図.....	4
第4図 層序断面図.....	6

写真図版目次

図版1 遺跡遠景.....	11
図版2 調査区全景（調査前）.....	11
図版3 作業風景.....	12
図版4 調査区全景（調査後）.....	12
図版5 層序1（礫層）.....	13
図版6 層序2（A12）.....	13
図版7 出土遺物1（A18）.....	14
図版8 出土遺物2（A12）.....	14
図版9 出土遺物3（A14）.....	14
図版10 出土遺物4.....	14

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

中野市では、平成22年度に市道岩井赤岩線の拡幅工事を計画した。工事計画区内は神宮寺下遺跡の北端部にあたり、工事が遺跡に影響を及ぼすことから、5月31日神宮寺下遺跡調査指導委員会のもとで遺跡の保護協議を行い、遺跡の記録保存をすることとした。

神宮寺下遺跡発掘調査指導委員会

委 員 長	閑 孝一	調査団長
理 事	中島庄一	中野市立博物館長
タ	町田 茂	中野市道路河川課長
タ	高野澄江	中野市広域シルバー人材センター事務局長
タ	町田郁夫	中野市教育委員会生涯学習課長
委 員	吉原佳市	調査主任
タ	小嶋昭一	中野市道路河川課係長
タ	池田 徹	中野市広域シルバー人材センター主任
タ	佐々木正	中野市教育委員会生涯学習課課長補佐

神宮寺下遺跡発掘調査団

團 長	閑 孝一
調査主任	吉原佳市
調査補助員	岡田良幸
(発掘調査参加者)	
石井 博	榎本勝雄
大塚加津美	鈴木英一
田村多恵子	徳竹知従
徳永徳一	
平尾恭子	武藤良助
事務局	池田 徹
	山岸佳祐

第2節 調査日誌

6月1日（火）

本日より調査開始。調査団結団式終了後器材搬送を行う。重機にて表土除去を行ったが、遺物包含層が確認できないため、地表面まで一部掘り下げる。遺物の出土は見られなかった。

6月2日（水）

調査区にグリット設定。A4グリットより調査を行う。遺物包含層は一部に確認できるが、地表面の黄褐色土層まで拳大から人頭大の礫が入り混じっていた。葡萄栽培用のアンカーボルト等により大きく擾乱された状態であった。

6月3日（木）

A4グリットより南に25mほど表土除去した後掘り進むが、遺物の出土はなかった。A13、A14グリットにピットが確認されたが、遺物の出土はなかった。遺構であるかは不明。

6月4日（金）

A1、A2グリットはバックホーによる確認調査を行う。大きく搅乱されていた。A20グリットにピットが確認されたが、遺物の出土はなかった。

6月7日（月）

A18グリットより土器片数点出土。いずれも黒色土層下部の茶褐色土層より出土している。A4グリットより南へ層序測量。

6月8日（火）

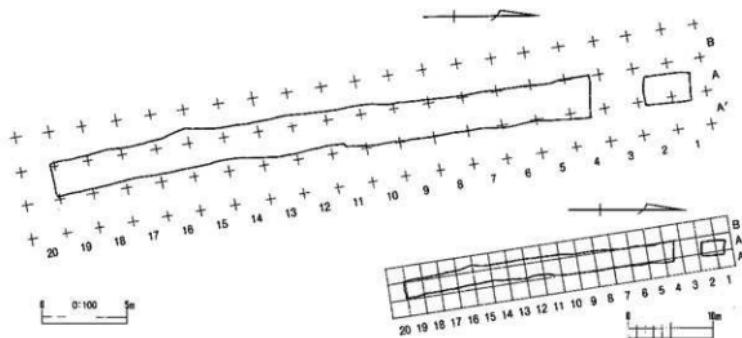
A12グリットの黒色土層中層より土器片数点、最下部より黒曜石片1点出土。層序の状態により大きな落ち込みを確認できるが、遺構と考えられても調査区域外へ延びるため掘り進むことはできなかった。

6月9日（水）

A16グリットに茶褐色土層の大きな落ち込みが見られた。拳大から人頭大の礫が大量に混入しており、急激に落ち込んでいた。

6月10日（木）

写真記録。層序等の測量を行う。器材等搬送し本日で調査を終了した。

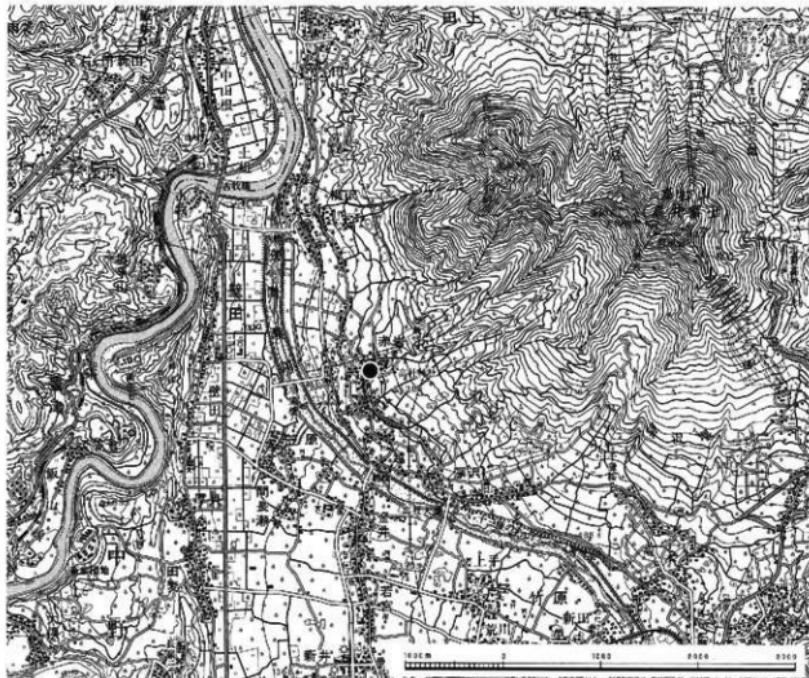


第1図 グリット設定図

第2章 遺跡の位置とその周辺

第1節 遺跡の位置と自然環境

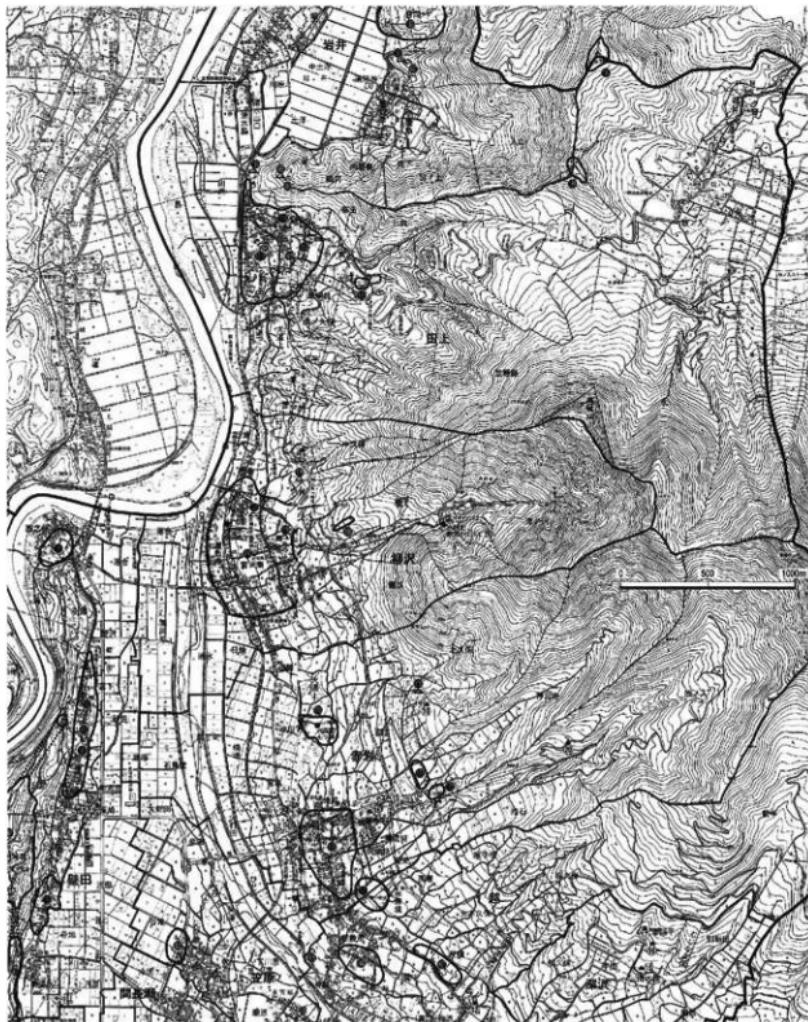
遺跡は長野県中野市大字赤岩字新蔵坊711番地に所在し、北緯 $36^{\circ} 47' 06''$ 、東經 $138^{\circ} 21' 90''$ 、標高395～396mに位置する。中野市の東北部に聳立する高社山は、善光寺平と飯山盆地を分断し、北方、南方に向け大きく裾野を広げる。西方から南方の裾野は、志賀高原より發した夜間瀬川により造られ、夜間瀬川により形成された扇状地へと緩やかに移行していく。遺跡は高社山の南方裾部の先端部に位置する。遺跡の所在する赤岩集落は山麓深くまで集落が形成され、高社山に大量に降った雪は地下深く浸み込み山麓奥深く發して集落内を流れ主に果樹園が發達している。気候は気温が年較差がやや大きい内陸性温帯気候で、市北部の岩井、田上、柳沢集落が飯山盆地と同様に多雪地であるやや裏日本型気候なのに対し、降雪量が少ない内陸性気候である。



第2図 遺跡の位置図

第2節 周辺の遺跡

神宮寺下遺跡が所在する高社山麓の遺跡は第3図のとおりである。柳沢遺跡では夜間瀬川沖積地で青銅器が発見されたのは最近のことである。



第3図 周辺の遺跡分布図

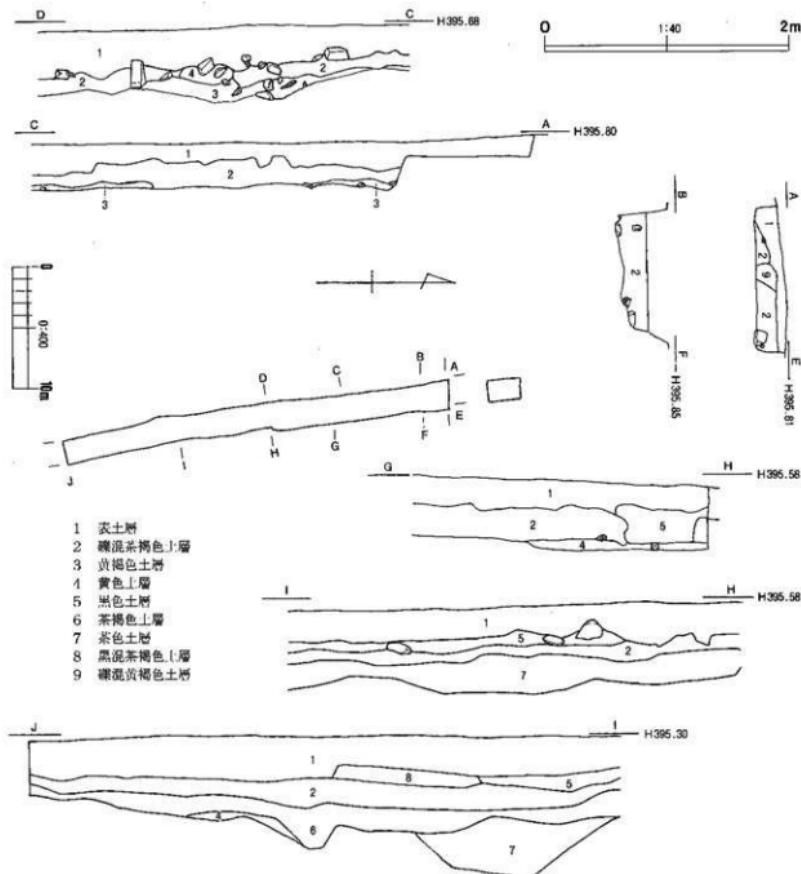
周辺の遺跡地名表（[中野市遺跡群細分布図]より）

遺跡番号	遺跡名	所 在 地	遺 墓・遺 物	調査の有無 文献	備 考
167	聞上遺跡	越	屋敷塗、反畑	(縄)石蹴、打石斧、磨石斧	
168	屋敷塗遺跡	越	屋敷塗	(縄)石蹴、石槍、打石斧、磨石斧、石鍬、砥石	22
169	きつね塚	笠原	向ヒ原	板状遺構	
170	梵天遺跡	赤岩 越	梵天、馬場西 西原、赤岩境	(旧)尖頭器 (縄)石蹴、打石斧	
171	神宮寺下遺跡	赤岩	神宮寺下、馬場 西、美女ほか	(弥)後期土器、太形船刃石斧、扁平片刃石斧、有 孔石劍 (古)整穴住居、柱穴、周溝 土師器、灰器、砾石	有(S33.46年) 29,32,37,71
172	神宮寺遺跡	赤岩	神宮寺	(古)勾玉 (平)土師器、須恵器	
173	村林遺跡	赤岩	神宮寺	(旧)ナイフ形石器	44
174	七ツ鉢遺跡	赤岩	人道上	(縄)石蹴、岩石斧、砾石、環石	1
175	赤岩古墳	赤岩	扇平、北久保	(古)勾玉、環環、小玉、直刀、鐵鏃、銅	推定位置(墳丘は 破壊され、確認さ れていない)
176	柳沢遺跡	柳沢	坂穴、八幡塚、坂 敷塗、道下ほか	(縄)梯板式・加賀利式、石蹴、打石斧、磨石斧、 石砧、磨石、石錐 (弥)百瀬式・滑溜水式、石蹴、磨石蹴、人形船刃石 斧、扁平片刃石斧、磨石、石劍、圓形骨牙、 管狀土錐、梗上勾玉・滑石製紡錘車	22
177	八幡塚古墳	柳沢	八幡塚	(古)円墳(径15m、高1.2m) 横穴式石室 絆石	後世經塙として利 用された
178	塚穴古墳	柳沢	塚穴	(古)円墳	
179	小丸山古墳	柳沢	久人保	(古)円墳(径13.5m、高1 m) 管玉、小玉、切子玉	
180	棚平旗塚遺跡	柳沢	棚平	(中)旗塚	
181	田上遺跡群	田上			
181-1	田上寺の前遺跡	田上	寺ノ前、用郷、宵 ノ前	(縄)早、前、中、後期土器、瓶の内式、石蹴、打 石斧、白玉、透石、磨石、石錐 (弥)住居址、集石上塙臺 中、後期土器、太形船刃石斧、扁平片刃石 斧、白玉 (古)土師器、須恵器	有(S37.58.60 年) 4,87,102
	(田上寺の前遺跡)			(平)土師器、須恵器 (中)古鏡 (近)古鏡	
181-2	田上日向遺跡	田上	宮ノ前	(縄)中期土器 (弥)後期土器 (平)土師器、須恵器	4
181-3	田上宮の前遺跡	田上	宮ノ前、中ノ宮	(旧)尖頭器 (縄)中期土器 (弥)後期土器 (平)土師器、須恵器	
182	大洞遺跡	田上	大洞	(平)土師器、須恵器 (中)灯明皿	
183	日向1号古墳	田上	日向	(古)円墳(径25m、高3.8m) 基石	中世のろし台とし て使用される
184	日向2号古墳	田上	日向	(古)円墳(径7.7m、高0.8m) 紙合石棺(長2.5m、幅0.6m、高0.4m)	
185	日向3号古墳	田上	日向	(古)円墳(径12m、高2 m)	
186	日向塚	田上	日向	(中)板状遺構	
187	岩井1号古墳	岩井	下林	(古)円墳(径15m、高3.5m)	
188	岩井2号古墳	岩井	上林	(古)円墳(径11m、高1.7m)	
189	月岡遺跡	岩井	月岡	(縄)後期土器 (平)土師器	伝岩井氏居館跡

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構

本調査において検出された明確な遺構はない。ただA12グリットの黒色土層（第4図）は調査区東側に続いており、何らかの遺構になる可能性も否定できない。A16グリットに検出された茶褐色土層の急激な落ち込みは、やや丸みをおびた拳大から人頭大の礫を大量に含む。一部のみの調査のため遺構であるか判定しがたい。周辺の地形を含めて考えていく必要があるだろう。



第4図 層序断面図

第2節 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器の小片数10点と黒曜石素材1点である。大半は茶褐色土層から出土するなど出土地点が不明瞭であり、造構に伴うものもない。遺物は調査区の層序、搅乱状況から判断して裾野上部から流れたものと考えられる。

参考文献

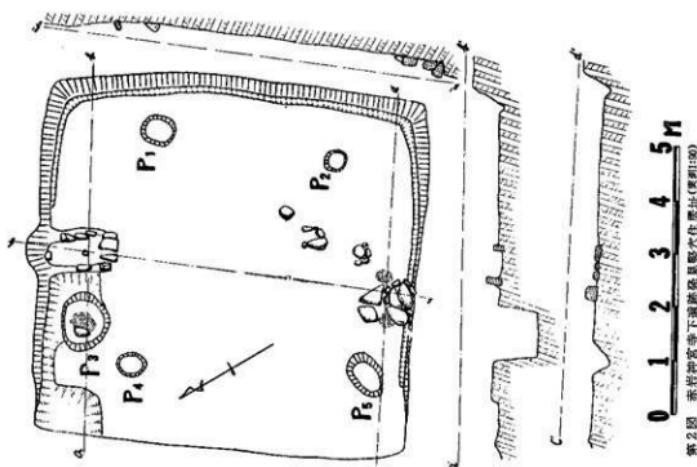
- 金井汲次・桐原健 1958 長野県中野市赤岩神宮寺下遺跡調査概報告 信濃史学公
中野市誌編纂委員会 1981 中野市誌（自然編）

（付）神宮寺下遺跡について

神宮寺下遺跡については早い頃から識者の目に止まっていた。大正11年刊行の『下高井都誌』（下高井郡役所）には、科野村大字赤岩字神宮寺下出土の遺物として、土器（楕・甕・壺・高壺）13個体、石器（石斧・石鎌）12個が列挙されており、その数は赤岩地籍では群を抜いて多い。

下って、昭和31年刊行の『信濃考古叢観・上巻地名表』（信濃史料刊行会）には神宮寺下遺跡の名称はなく、宮下遺跡として（弥）箱清水式小形台付甕・大形輪刃石斧・偏平片刃石斧、馬場西遺跡として（弥）有孔石劍が記載されている。

続いて、昭和56年刊行の『長野県史考古資料編・遺跡地名表』（長野県史刊行会）では、神宮寺下遺跡（県史番号10・文化庁登録番号6571・中野市遺跡番号106）の出土遺物・造構として、（弥）後期土器・大



金井汲次・桐原健「長野県中野市赤岩神宮寺下遺跡調査概報告」[信濃III 10-8] 昭和33年より

大形蛤刃石斧・偏平片刃石斧・有孔石劍、(古)・整穴住居1・鬼高式と記載。

さらに、2006年に改定された『長野県中野市遺跡詳細分布図』(中野市教育委員会)には神宮寺下遺跡(遺跡番号171)出土遺物・遺構として(跡)後期土器・大形蛤刃石斧・偏平片刃石斧・有孔石劍、(古)・整穴住居・柱穴・周溝・土師器・鉄器・砥石が記載されている。

このように神宮寺下遺跡は早くから注目されながら、出土遺物等の記載に大きな進展がみられない。この間、唯一注目されるのは昭和33年に行われた発掘調査である。中野市において1番目の発掘調査というから、隔世の間がある。

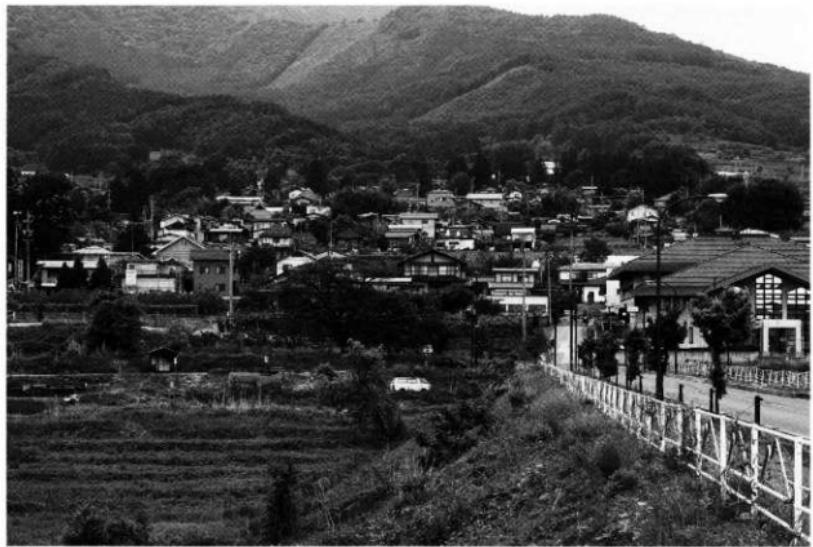
金井汲次・桐原健「長野県中野市赤岩神宮寺下遺跡調査概報」[信濃III 10-8]昭和33年によれば、発掘地点は字神宮寺下568番地、花岡茂太氏(現純之氏)所有畠で、同氏自宅の西隣にある。この調査で古墳時代後期(6世紀代・鬼高式期)の整穴住居が1軒発見されたが、その規模は南北7m、東西6.3m。整穴に周溝をめぐらし、北壁に石組かまとを設けている。この時期の一般的な住居で、住居跡からは鉄製品破片・砥石・土師器(甕・瓶・脚付盤・坏)が出土した。

ところで、神宮寺下遺跡がとくに注目されるのは、高社^{高社}高社神社の里宮(字宮地)に創建されたという「高社山神宮寺」(字神宮寺)との関連である。所在地の字神宮寺は高社山の中腹まで広く、慶長19年(1614)の山崩れで埋没したという神宮寺の跡地は不詳のままである。

ただ、字神宮寺地縁からは土師器(高坏・坏・壇・壇片)須恵器(盤・壺)、滑石製丁子頭勾玉などが出土しているので、これらは祭器に関わる遺物であったかもしれない。他に、「願主百姓清太夫慶長16年神宮守納」と刻まれた青銅製神鈴が寛政年間に出土している。この年は神宮寺埋没の3年前である。

このため、神宮寺地縁に隣接する神宮寺下遺跡は神宮寺に関連が深いと考えられることはもともなことで、ちなみに、今回の調査地点である字新藏坊は神宮寺支坊48院の1つとされている。

写 真 図 版



図版1 通路遠景



図版2 調査区全景（調査前）



図版3 作業風景



図版4 調査区全景（調査後）



図版5 層序1(砾層)



図版6 層序2(A12)



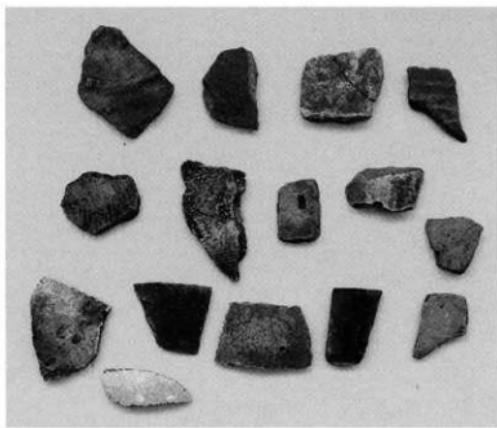
図版7 出土遺物1(A18)



図版8 出土遺物2(A12)



図版9 出土遺物3(A14)



図版10 出土遺物4

神宮寺下遺跡報告書抄録

ふりがな	じんぐうじしたいせき
書名	神宮寺下遺跡
編集者	吉原佳市
編集機関	(財)中野広域シルバー人材センター
所在地	〒383-0025 長野県中野市三好町一丁目4番6号
遺跡所在地	長野県中野市大字赤岩711
遺跡番号	中野市171
遺跡位置	北緯36°21'90" 東経36°47'06" 標高395~396m
調査期間	平成22年6月1日~6月10日
調査面積	100m ²
調査原因	市道岩井赤岩線拡幅工事
種別	散布地
主な時代	縄文中期、古墳時代
主な遺物	縄文土器、黒曜石、土師器、須恵器、灰釉陶器
主な遺構	なし
調査指導	中野市教育委員会

神宮寺下遺跡

—市道岩井赤岩線の拡幅工事に伴う発掘調査報告書—

発行日 平成22年6月30日

発行者 中野市教育委員会

〒383-2192 長野県中野市大字疋津2508

電話 0269-38-3112

印刷所 ほおづき書籍株式会社

〒381-0012 長野市柳原2133-5

電話 026-244-0235

